

# きんき自転車瓦版

特別号  
ほんきバイクピタ

## 近畿一円から 大集合

近畿の自転車まちづくり団体が会して互いの活動や情報を交換し、自転車をめぐる環境について考える、恒例の交流会です。第5回目となる今回は自転車マップをテーマに、制作の経験を持つ各団体にその経緯や効果を披露し合っていたき、また第2部では開通した京阪奈のサイクリングルートを中心に、自転車マップと自転車観光について考えます。



第1部では自転車マップづくりの経験をもつ6つの団体が、それぞれの事例を10分にまとめて発表する。そもそもの目的や意図に始まり、制作のプロセス、その後の活用法や効果にいたるまで、団体ごとのアピールポイントや苦労話など、六者六様の特徴が浮き彫りになった。

LLP自転車ファイブプロジェクトの藤本氏は、「(自分たちがつくった)京都自転車マップはおそらく日本で初めての書店の流通にのる本格的な自

転車マップ」と位置づけ、「これが売れることで自転車マップも事業として成り立つということを示したかった。これを皮切りにほかの地域でも地図製作会社や出版社などがどんどん参入し、日本全国の自転車マップができてほしい」とこれからの自転車マップに対する期待を話した。京都自転車マップは街中版と郊外版を合わせて14,000部、びわ湖1周サイクリングは初版5,000部が完売したことを報告し、その圧倒的な数に会場はざわめいた。一方で「地図の苦手な女性を視野に入れ、シンプルで見ている楽しいマップづくりをいつも心がけている」と(株)ワークルूमの塚村氏。日本全国のサイクリングロードを掲載した自転車手帳は「2色刷りで苦労したけれど、情報を絞っていけば2色でも十分表現できることがわかった」と

発表した。

また、地図の作成プロセスで多くの団体は実走調査を敢行している。

その中でもおつ環境フォーラム自転車にやさしいまちづくりグループでは、調査中に発見した自転車が走行する上での課題を

にも取り組んでいる。

第2部では、京都嵐山と奈良飛鳥を結ぶ「八幡木津自転車道線」と「せんとの道ルート」を所管する京都府・奈良県の両行政から登壇。広域連携の意義とそこでの地図製作の苦労などが語られた。

さらに詳しくは、輪の国ホームページ(<http://www.biwakol.jp>)へ。



2012年1月21日(土) 14~17時

会場: 大津市旧大津公会堂  
(京阪電車浜大津駅から東へすぐ)

主催: 輪の国びわ湖推進協議会  
歴史街道推進協議会

協力: 自転車文化タウンづくりの会  
特定非営利活動法人環境市民  
特定非営利活動法人五環生活

内容: 第1部「自転車まちづくり団体とマップづくり」/ 第2部ディスカッション「京阪奈&びわ湖の自転車ネットワークと自転車マップ」

全体司会: 辻野隆雄  
(輪の国びわ湖推進協議会/ 環境市民)